

令和7年度 秦野市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和8年5月

秦野市（神奈川県）

○計画期間:令和7年4月～令和12年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和7年度終了時点(令和8年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市では、令和7年3月に計画の認定を受け、「名水と歴史がつなげる未来 しなやかな街なか暮らし」をまちの将来像に掲げ、「①人との交流・活動が生まれるまち」、「②“はだの”ならではの楽しみがあり、歩きたくなるまち」、「③便利で快適で住み続けられるまち」の3つを基本方針として、ハード・ソフト合わせて52事業を実施している。そのうち、拡幅整備が進む県道705号沿道における「多世代交流拠点整備事業」を主要事業のひとつに位置付け、中心市街地における多様な活動を生むとともににぎわい創出による交流人口の拡大を図ることとしている。

また、駅をランニングイベントやまち歩きの拠点として活用するなどの取組が促進され、交流創出事業数は基準値の「34回/年」から令和7年度は「64回/年」に増加した。これにより、まちなかでの活動や交流機会の創出が着実に進展している。

主要事業の「水無川沿い・市道6号線公共空間の活用検討」では、令和6年度に実施した社会実験の結果を踏まえ、商店街や実行委員会などの民間組織を主体とした休日のイベント開催が行われるようになり、定着化に向けた取組みが着実に進んでいる。

通行者・滞在者数は基準値の「平日65人・休日56人」から令和7年度は「平日85人・休日74人」に増加し、滞在者アクティビティ数も基準値の「6件」から令和7年度「9件」へ増加した。

中心市街地の商業については、新規出店が一定程度あるものの、空き店舗の減少には至っていない。今後は新規出店に向け、借手と貸手のニーズを把握するとともに、「まちなか開業サポート事業」などに取り組むことにより、中心市街地における新たな起業や創業を促していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

【人口】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域※)	令和6年度 (計画前年度)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
人口	5,427	5,363				
人口増減数	-13	-38				
自然増減数	-65	-69				
社会増減数	52	31				
転入者数	248	254				

※ 中心市街地及びその周辺(本町一丁目、本町二丁目、本町三丁目、元町、寿町、栄町、大秦町、今川町)の人口の合計

【地価】

(単位：円/m)²

		令和6年度 (計画前年度)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)
本町一丁目 4-10	国土交通省 公示地価	150,000	152,000			
	神奈川県 公示地価	150,000	151,000			
本町二丁目 1-32	神奈川県 公示地価	192,000	194,000			

2. 令和7年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

令和5年度から社会実験として実施してきた水無川沿い空間の活用については、休日のイベントとして民間主導による開催が行われ、定着し始めるなど、徐々にまちの変化が生まれつつある。

また、交流創出事業の達成状況については、本会議等によるにぎわい創造の取組に呼応し、駅をランニングイベントやまち歩き of 拠点として活用するなど、民間団体による新たな取組が始まっており、これまでの検討や社会実験の積み重ねが、公民連携の取組の推進に着実に発揮されているものと評価する。

一方で、今後は休日のイベントに限らず、日常の中で人々の交流や活動が自然に生まれる仕組みづくりや、人にとって居心地のよい空間づくりについて、引き続き検討を進めていくことが重要である。あわせて、現在検討が進められている各事業については、関係機関等と連携を図りながら、着実な事業化・実現に向けて取り組むことを求める。

さらに、目標指標である歩行者・滞在者数及び営業店舗数の達成に向けては、主要事

業である「多世代交流拠点整備事業」が極めて重要な役割を担うことから、多様な活動や交流の拠点となる施設を目指すとともに、他の関連事業との連携を通じて、まち全体の回遊性向上にも寄与する施設となることを期待する。

以上を踏まえ、第１期計画の２年目に向けては、今後の社会潮流等の変化にも柔軟に対応しながら、「一名水と歴史がつなげる未来―しなやかな街なか暮らし」の実現に向け、行政、本まちづくり会議、市民、各事業者等が引き続き連携し、目標達成に向けた施策の実効性を一層高めていくことを期待する。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値	基準値からの改善状況※１	目標達成に関する見通し※２	
						前回の見通し	今回の見通し
交流人口の拡大	交流創出事業数	34 回/年	109 回/年	61 回/年	B	—	A
	公共施設の来訪者数 (参考指標)	0	95,500	0	C	—	A
歩道及び滞在空間の快適性の向上	通行者・滞在者数	平日 65 人 休日 56 人	平日108人 休日98人	平日 85 人 休日 74 人	B	—	A
	滞在者のアクティビティ数	6 件	11 件	9 件	B	—	A
生活利便性の向上	中心市街地営業店舗数	150 店舗	154 店舗	161 店舗	A	—	A
	居住満足度	85%	88%	88%	A	—	A

< 基準値からの改善状況（※１） >

最新値が基準値や目標値と比較してどうであるかで判断

A：目標達成、B：基準値より改善、C：基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類（※２） >

計画終了時の数値が、基準値や目標値と比較してどのような見通しかで判断

A：目標達成が見込まれる

B：目標達成が見込まれないが基準値を上回ることが見込まれる

C：目標達成及び基準値を上回ることが見込まれない

※「＜基準値からの改善状況（※１）＞」、＜目標達成に関する見通しの分類（※２）＞ともに、関連する事業等の進捗状況が順調でない場合は、英字を小文字にして下線を引いて下さい。（例：a、b、c）

2. 目標達成見通しの理由

「交流創出事業数」については、実行委員会による駅ペDESTロリアンデッキでのマルシェの開催や駅テナントを拠点とする民間組織によるランニング関連のイベント開催などにより増加した。今後も、各団体等と連携しながら、駅前の利便性を生かした交流創出事業の開催に取り組むとともに、多世代交流施設の整備により施設を活用したイベントやセミナー等が開催される見込みであることから、目標は達成可能であると考えます。

また、「通行者・滞在者数」については、駅前のマンションの竣工や建物更新後のテナントビルにジムや学習塾などのサービス業等の店舗が新たに入居したことなどにより増加した。今後は、「多世代交流拠点整備事業」や「商業・業務の新たな核づくり」などの主要事業とソフト事業などを連携させながら取組みを進めることにより、目標は達成可能であると考えます。

「公共施設の来訪者数（参考指標）」については、対象区域に公共施設がなく、計画の施策である「多世代交流拠点整備事業」により、拠点が整備された場合に初めて計測する数値である。多世代交流拠点整備のため、用地の取得を進めながら、基本構想を策定し、市民との懇談会や説明会によって交流拠点の機能について検討を重ねており、令和8年度中に基本計画を策定する予定である。交流拠点が整備された際には、機能の一部として移転を想定している「はだのこども館」の来訪者を包括すると予想されることから、目標達成は可能と考えます。

「滞在者アクティビティ」については、基準値を上回る数のアクティビティが観測された。今後は、より多様なアクティビティが起こる環境整備の取組みとして、駅前広場整備の検討などにより人にとって居心地の良い公共空間を目指すことで、目標達成は可能であると考えます。

「中心市街地営業店舗数」については、空きテナントへの出店等により基準値よりも増加した。しかし、県道704号や片町通りの商店街等には、長期間に渡り空き店舗の状態が続いている店舗もあることから、引き続き、まちなか開業サポート事業等により、貸主と借主のニーズを把握しながら、新規開業につながる仕組みづくりを目指すこととする。

「居住満足度」については、計画に位置付けるソフト事業等の取組みなどにより、基準値を上回る結果となった。引き続き、多世代交流施設の整備や低未利用資産の活用などにより、中心市街地の生活利便性を高めることで居住満足度の向上を図る。

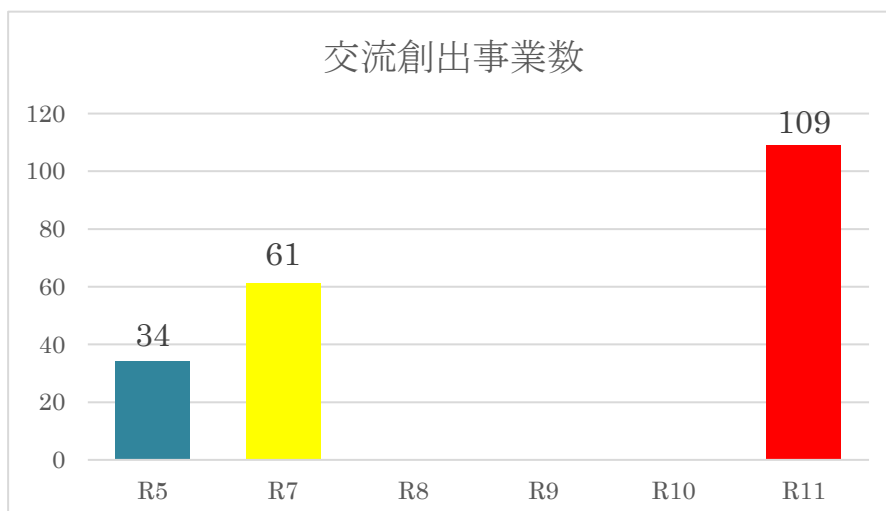
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

フォローアップ初年度のため、未実施。

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1)「交流創出事業数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 61～P. 62 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R5	34 (基準年値)
R7	61
R8	
R9	
R10	
R11	109 (目標値)

※調査方法： 1年間における中心市街地で実施されたイベントやセミナーなどの交流創出事業数の実施回数の集計

※調査月：毎年3月末

※調査主体：秦野市

※調査対象：中心市街地で実施されたイベントやセミナーなどの交流創出事業

〈分析内容〉

交流創出事業に係る各ソフト事業については、概ね予定通り進んでいる。

引き続き、民間団体等と連携しながら、交流創出事業の開催を継続するとともに、検討を進めている多世代交流施設の整備により、日常的に人が訪れ、活動や交流が生まれる環境整備を図る。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 多世代交流拠点整備事業（秦野市）

事業実施期間	令和6年度～令和11年度【実施中】
事業概要	県道705号沿道に秦野駅北口周辺のにぎわい創造に資する多世代交流拠点を整備するに当たり、現況調査、測量、権利調査、及び従前権利者への損失補償、基本設計のほか、建築設計、土地整備、施設整備を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業） （令和7年度～令和11年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	多世代交流拠点の整備に向け、市民等の意見を踏まえた整備基本構想を策定するとともに、用地確保を進めている。
事業の今後について	用地確保を進めるとともに、市民懇談会などを通じて市民の意見を集約し、中心市街地に求められる施設を整備することで、交流創出事業数の増加を図る。

②. 地域の回遊性に資するイベントの実施事業（秦野商工会議所、秦野市観光協会等）

事業実施期間	令和7年度～令和11年度【実施中】
事業概要	登録有形文化財や秦野名水などを生かした観光ボランティアなどによるまち歩きや中心市街地を中心とした飲食店をめぐるスタンプラリー、地域資源を生かしたイベントなどの実施。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （令和7年度～令和11年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	観光ボランティアによるまち歩きを開催（11回／年） ランニングをキーとしたプロモーション動画が作成されたこともあり、丹沢日和 nature activity base によるランニングイベント（10回／年）はさらなる交流を生み出した。 これにより、参加者の中心市街地内における回遊性の向上に加え、当日の参加を通じたまちの魅力の認知拡大により、次回以降の来訪意欲の喚起およびリピーターの増加が期待され、継続的な回遊の促進につながった。
事業の今後について	地域資源を生かし、中心市街地の回遊性を高めるイベントの開催等により、交流創出事業数の増加を図る。

③. まちなか開業サポート事業

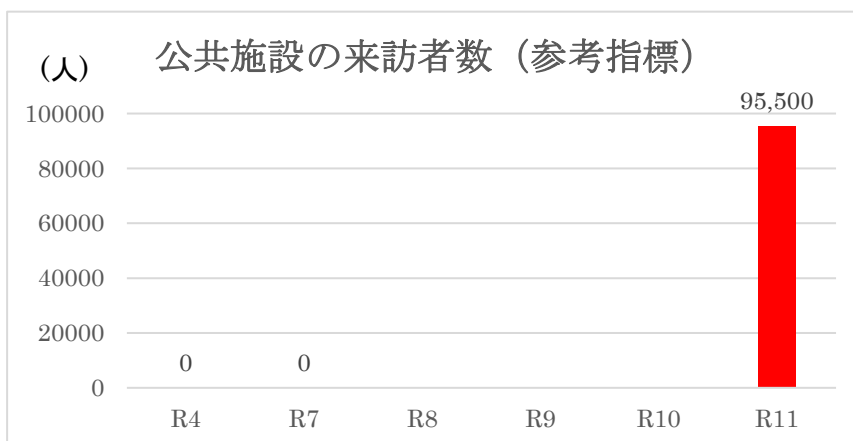
事業実施期間	令和7年度～【実施中】
事業概要	女性のためのスキルアップセミナー等を開催し、商業の新たな担い手の開業支援を行う。また、出店希望者と貸主とのマッチングを支援する制度等を構築する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （令和7年度～令和11年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	起業や事業継承等に係るセミナーを開催するためのニーズ調査や具体的な事業内容の検討を行った。
事業の今後について	令和8年度からセミナー等を開始し、まちのプレイヤーの発掘・育成をはかることで、交流創出事業数の増加を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

主要事業は概ね順調に進捗しており、令和8年度から動き出す事業もあることから、今後も主要事業や他のソフト事業等と連携して交流創出事業数を増やすことで、目標達成は可能と考える。

(2)「公共施設の来訪者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 63～P. 64 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R4	0 人 (基準年値)
R7	0 人
R8	
R9	
R10	
R11	95,500 人 (目標値)

〈分析内容〉

対象区域に公共施設がなく、計画の施策である「多世代交流拠点整備事業」において整備される交流拠点を計測の対象とすることから、供用予定である令和 11 年度のみ参考目標値を設定している。そのため、令和 7 年度の実績値は未計測である。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 多世代交流拠点整備事業（秦野市）

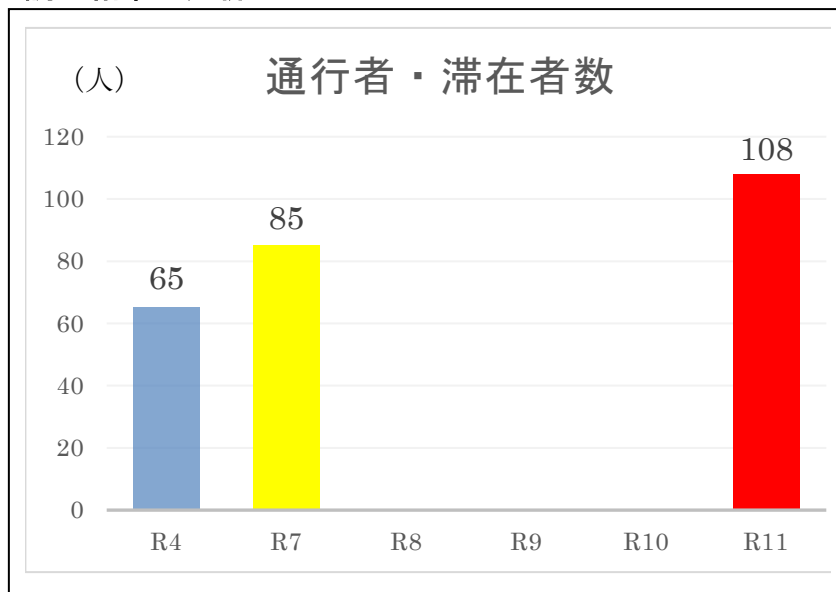
事業実施期間	令和 6 年度～令和 11 年度【実施中】
事業概要	県道 705 号沿道に秦野駅北口周辺のにぎわい創造に資する多世代交流拠点を整備するに当たり、現況調査、測量、権利調査、及び従前権利者への損失補償、基本設計のほか、建築設計、土地整備、施設整備を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業） （令和 7 年度～令和 11 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	多世代交流拠点完成に向け、拠点整備のための用地確保を進めている。
事業の今後について	用地確保を進めるとともに、市民懇談会などを通じて市民の意見を集約し、中心市街地に求められる施設を整備することで、供用開始後の来訪者の増加を図る。令和 8 年度には基本計画を策定のうえ、公民連携手法により施設整備事業者の公募を開始し、令和 11 年度中に供用開始する予定である。

●目標達成の見通し及び今後の対策

市民懇談会や説明会などを通じて、市民の求める機能を施設に取り入れることで、供用開始後の来訪者の増加を図る。それに加えて、機能の一部として移転を想定している「はだのこども館」の来訪者を包括すると予想されることから、目標達成は可能と考える。

(3)「通行者・滞在者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 65～P. 67 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R 4	平日 65 人 休日 56 人 (基準年値)
R 7	平日 85 人 休日 74 人
R 8	
R 9	
R10	
R11	平日 108 人 休日 98 人 (目標値)

※調査方法：

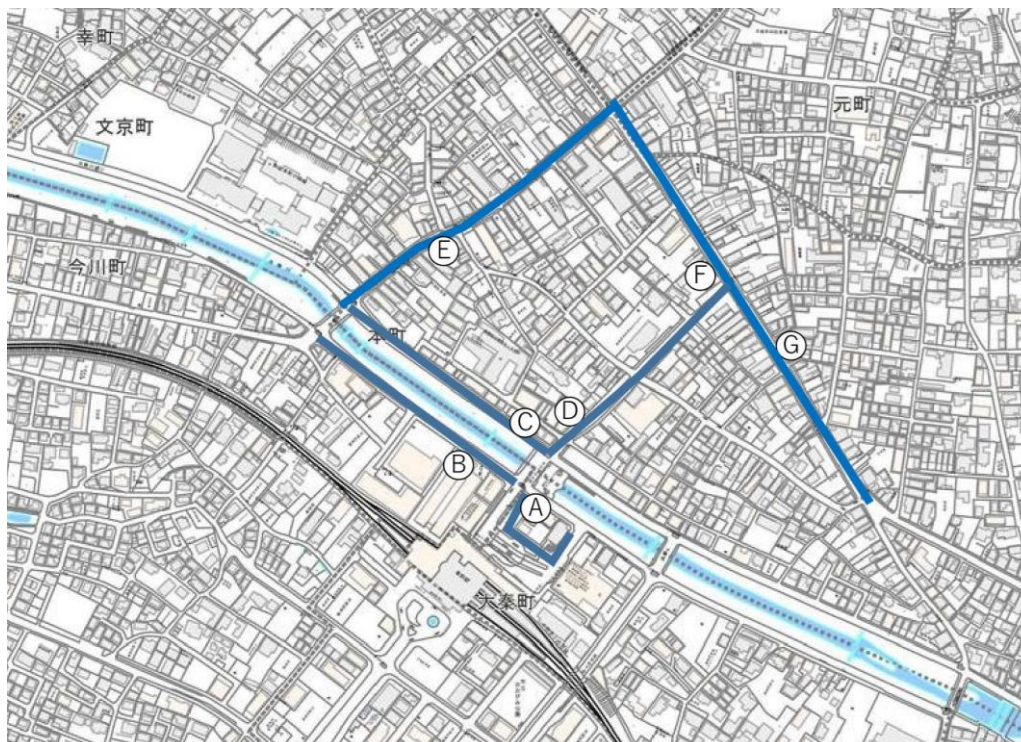
国土交通省が示す「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」調査要領（令和2年3月）を用いて、7か所の調査地点において、3分間で目の前を通過した人数を計測し、それぞれの地点の平均の合計とする。

※調 査 月：毎年10月下旬

※調査主体：秦野市

※調査対象：7調査地点の通行者・滞在者

調査地点図



(単位：人)

	令和４年度 (基準値)	令和７年度 (１年目)	令和８年度 (２年目)	令和９年度 (３年目)	令和１０年度 (４年目)	令和１１年度 (５年目)
地点Ａ 駅前広場	17 (平日) 13 (休日)	24 (平日) 23 (休日)				
地点Ｂ 水無川右岸	10 (平日) 9 (休日)	14 (平日) 14 (休日)				
地点Ｃ 市道６号線	8 (平日) 6 (休日)	12 (平日) 9 (休日)				
地点Ｄ 県道 705 号	9 (平日) 7 (休日)	13 (平日) 10 (休日)				
地点Ｅ 県道 704 号	7 (平日) 9 (休日)	7 (平日) 8 (休日)				
地点Ｆ 片町通り (四ツ角)	9 (平日) 8 (休日)	11 (平日) 7 (休日)				
地点Ｇ 片町通り (台町)	5 (平日) 4 (休日)	4 (平日) 3 (休日)				
合計	65 (平日) 56 (休日)	85 (平日) 74 (休日)				

〈分析内容〉

令和７年度は、基準値である令和４年度に比べ、平日が 20 人/日の増加で、休日が 18 人/日の増加となっている。特にＡ地点及びＢ地点は、新たなマンションの竣工やテナントの出店などにより増加した。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 多世代交流拠点整備事業（秦野市）

事業実施期間	令和６年度～令和１１年度【実施中】
事業概要	県道 705 号沿道に秦野駅北口周辺のにぎわい創造に資する多世代交流拠点を整備するに当たり、現況調査、測量、権利調査、及び従前権利者への損失補償、基本設計のほか、建築設計、土地整備、施設整備を行うもの。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業） （令和７年度～令和１１年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	多世代交流拠点完成に向け、拠点整備のための用地確保を進めている。
事業の今後について	用地確保を進めるとともに、市民懇談会などを通じて市民の意見を集約し、中心市街地に求められる施設を整備することで、通行者・滞在者数の増加を図る。令和８年度には基本計画を策定のうえ、公

	民連携手法により施設整備事業者の公募を開始し、令和 11 年度中に供用開始する予定である。
②. 水無川沿い・市道 6 号線公共空間の活用検討（秦野市）	
事業実施期間	令和 5 年度～令和 11 年度【実施中】
事業概要	駅とまちなかをつなぐ交流・滞留空間の創出を図るため、市道 6 号線を含む水無川沿いの公共空間の活用方法を検討する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業 （令和 7 年度～令和 11 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 6 年度までの社会実験の結果を踏まえ、商店街等民間組織が企画し、市が支援する形で、水無川沿い・市道 6 号線を歩行者天国化した休日のイベントを開催（4 回／年）
事業の今後について	民間団体等と連携して休日のイベント活用を行いながら、人にとって居心地の良い空間づくりに向けた検討や社会実験などを行うことで、「歩いて楽しい、歩いて暮らせるまちづくり」を推進し、通行者・滞在者数の増加を図る。
③. 市道 82 号線（北口駅前広場）歩道整備事業（秦野市）	
事業実施期間	令和 8 年度【実施中】
事業概要	駅前広場の一部となっている市道 82 号線の一部に植栽やベンチを設置し、高質化と滞在空間を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業 （令和 7 年度～令和 9 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	駅前広場及びその周辺における人流調査等を実施し、課題の把握等を行った。
事業の今後について	駅前広場を活用し、休憩スペース等を設け、人にとって居心地の良い空間創出を促すことにより、通行者・滞在者数の増加を図る。
④. 商店街販売促進事業（秦野市）	
事業実施期間	平成元年～【実施中】
事業概要	中心市街地における商店街事業に対し、市が補助金を交付する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （令和 7 年度～令和 11 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	電子地域通貨 O M O T A N コインを使ったスタンプラリー等に補助金を交付。また、多様な団体が組織する実行委員会が行うにぎわい創出事業について、補助金を交付する新たな制度を創設した。これにより、多様な実施主体によるイベント等の実施に係る負担の軽減が図られ、新たな取組の創出が促進され、通行者・滞在者の増加につながっていくと考える。

事業の今後について

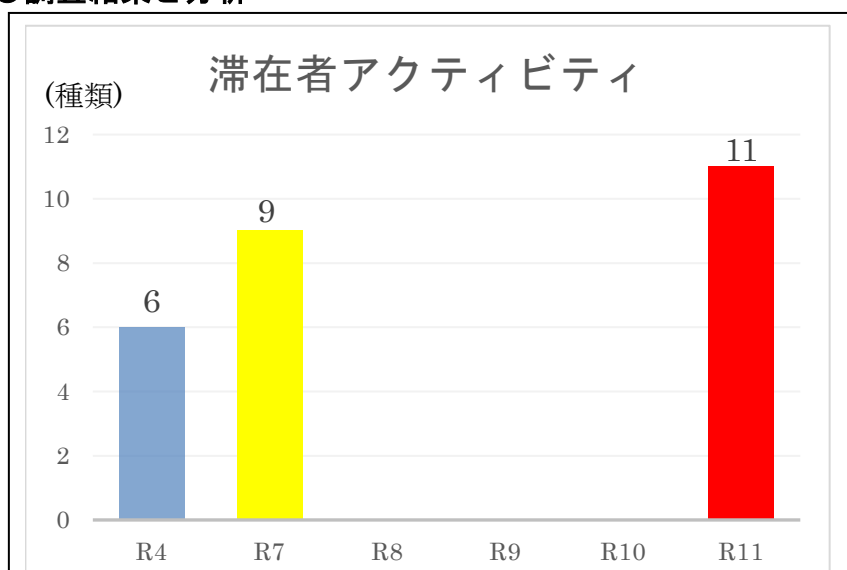
既存と新規の補助制度を組み合わせ、多様な主体による活動をより活発化させ、通行者・滞在者の増加を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

今後は、基準値と比較し横ばいであったE地点（県道 704 号）、G 地点（片町通り・台町側）において、商店街空き店舗対策事業やまちなか開業サポート事業などに取り組むとともに、今後完成予定の多世代交流拠点によるまちの回遊性を高めることにより目標達成可能と考える。

（３）「滞在者アクティビティ数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 68～P. 69 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R 4	6 件 (基準年値)
R 7	9 件
R 8	
R 9	
R10	
R11	11 件 (目標値)

※調査方法：

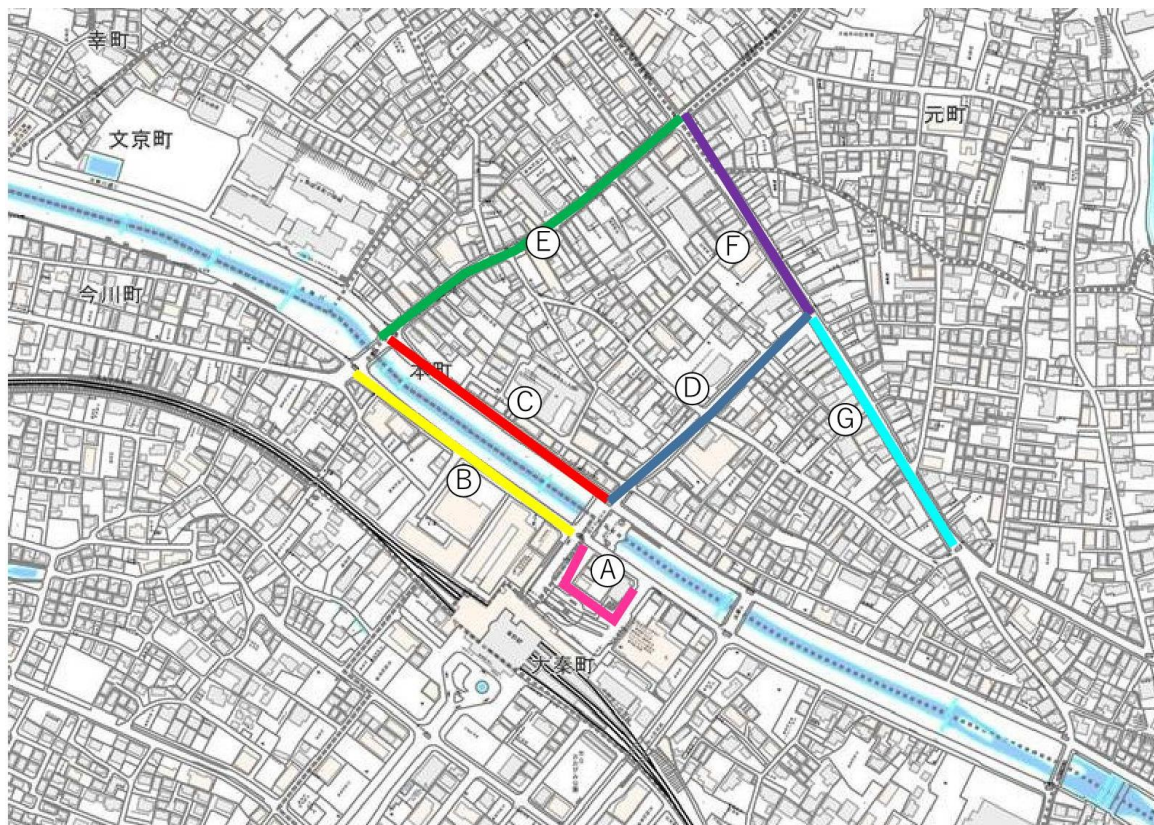
国土交通省が示す「まちなかの居心地の良さを測る指標（案）」調査要領（令和 2 年 3 月）を用いて、7 か所の調査区域において、3 分間で観測されたアクティビティ数の合計値とする。

※調 査 月：毎年 10 月下旬

※調査主体：秦野市

※調査対象：7 調査区域で観測されたアクティビティ

調査地点図



(単位：件)

項目（アクティビティの種類）	基準値	令和7年度	目標値
携帯電話・スマートフォンを見ている	○	○	○
電話をしている			
パソコンを見ている			(○)
本や雑誌等を見ている		○	(○)
建物や景色等を見ている	○	○	○
何かが来るのを待っている	○	○	○
何かの順番待ちをしている		○	
何かに群がっている			
写真・動画を撮っている			○
芸をしている			
買い物をしている		○	○
飲食をしている			○
仕事・ボランティア活動をしている	○	○	○
ペットを連れている		○	○
体操をしている			
遊んでいる			
横になっている			(○)
居眠りをしている			(○)
たばこ（電子たばこ含む）を吸っている	-	-	

同時に不特定多数の人に話しかけている			
営業目的以外で話しかけている			
自転車をいじっている	○		
会話をしている	○	○	○
合計	6	9	11

〈分析内容〉

令和7年度は、基準値である令和4年度に比べ、新たに「本や雑誌を見ている」、「何かの順番待ちをしている」、「ペットを連れている」の3件のアクティビティが増加した。

増加した3件は特に、水無川沿い右岸や駅前広場で観測された。

また、アクティビティの特徴として、「会話をしている」は、沿道の公園や店先で確認され、「写真・動画を撮っている」は、ハイキングやトレイルランニングを目的に訪れた人の活動として、駅前広場や水無川沿い等で観測された。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 水無川沿い・市道6号線公共空間の活用検討（秦野市）

事業実施期間	令和5年度～令和11年度【実施中】
事業概要	駅とまちなかをつなぐ交流・滞留空間の創出を図るため、市道6号線を含む水無川沿いの公共空間の活用方法を検討する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業 (令和7年度～令和11年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和6年度までの社会実験の結果を踏まえ、商店街等民間組織が企画し、市が支援する形で、水無川沿い・市道6号線を歩行者天国化した休日のイベントを開催（4回／年）
事業の今後について	民間団体等と連携して休日のイベント活用を行いながら、人にとって居心地の良い空間づくりに向けた検討や社会実験を行うことで、「歩いて楽しい、歩いて暮らせるまちづくり」を推進し、滞在者アクティビティ数の増加を図る。

②. 市道82号線（北口駅前広場）歩道整備事業（秦野市）

事業実施期間	令和8年度【実施中】
事業概要	駅前広場の一部となっている市道82号線の一部に植栽やベンチを設置し、高質化と滞在空間を整備する。
国の支援措置名及び支援期間	都市構造再編集中支援事業 (令和7年度～令和9年度)
事業目標値・最新値及び進捗状況	東海大学建築都市学部が制作した Moving cells（移動式家具）を活用し、駅前広場でくつろげる空間を創出するフリーマーケットを開催した。
事業の今後について	今後も駅前広場を活用して休憩スペース等を設けたイベント等を開催することでデータを収集し、人にとって居心地の良い空間創出

を促すことで、滞在者アクティビティ数の増加を図る。

③. 滞在空間創出快適性向上支援事業（秦野市）

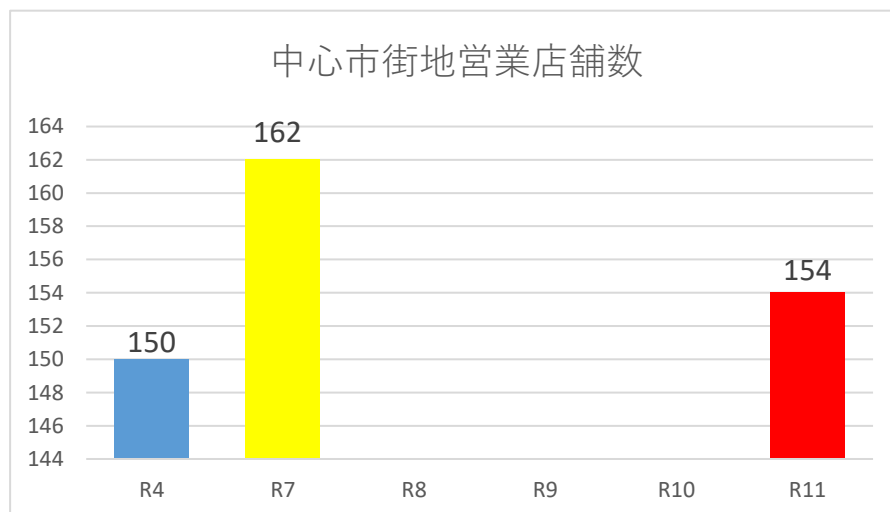
事業実施期間	令和7年度～令和11年度【実施中】
事業概要	道路境界線沿いの一部に歩行者が休憩や余暇、その他の活動のため、快適に過ごせるオープンスペースを確保し、その部分に施設整備をする場合に、支援する制度の創設に向け、調査検討を行う。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	水無川沿い市道6号線におけるイベント開催に合わせ、川を眺めながらゆっくり歩ける空間や、休憩できるスペースを設ける等の検証を行った。
事業の今後について	水無川沿いや県道705号沿道等での検証を重ね、支援制度を創設することで、滞在者アクティビティ数の増加を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

引き続き県道705号沿道や駅前広場、水無川沿い等において、イベント等を引き続き行う環境を整え、人のための居心地の良い空間づくりの検討を進め、整備することで目標達成可能と見込んでいる

（４）「中心市街地営業店舗数」※目標設定の考え方認定基本計画P.70～P.71参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R4	150件 (基準年値)
R7	162件
R8	
R9	
R10	
R11	154件 (目標値)

※調査方法：

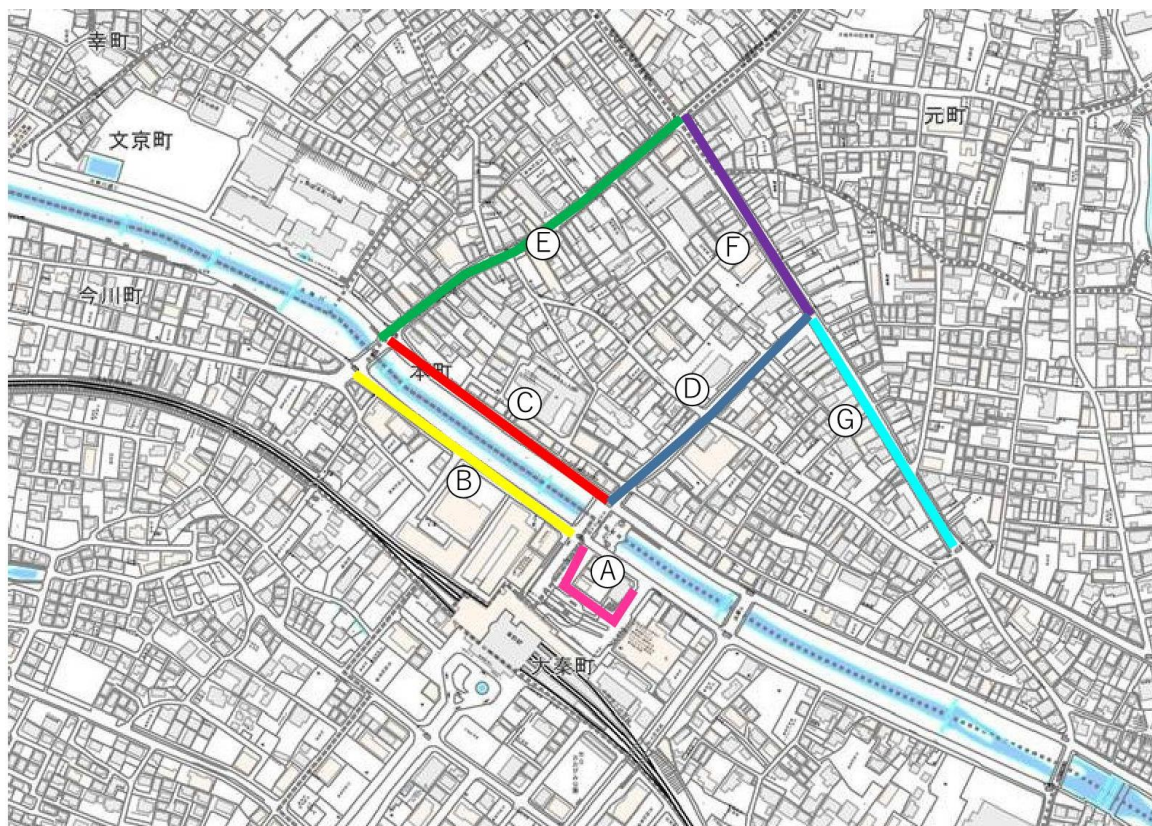
7か所の調査区域における営業店舗数の実地調査。

※調査月：毎年10月

※調査主体：秦野市

※調査対象：7調査区域で営業している店舗（飲食店、サービス業、販売店、公共施設）

調査地点図



(単位：件)

	令和4年度 (基準値)	令和7年度 (1年目)	令和8年度 (2年目)	令和9年度 (3年目)	令和10年度 (4年目)	令和11年度 (5年目)
地点A 駅前広場	26	27				
地点B 水無川右岸	12	18				
地点C 市道6号線	21	23				
地点D 県道705号	19	22				
地点E 県道704号	37	38				
地点F 片町通り(四ツ角)	20	17				
地点G 片町通り(台町)	15	17				
合計	150	162				

〈分析内容〉

令和7年度は、基準値である令和4年度に比べ、水無川沿い（B区域）等において、営業店舗数が増加した。これは、更新されたテナントビルに新たに出店があったためである。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 商店街空き店舗対策事業（秦野市）

事業実施期間	平成14年度～【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して開業した事業者に対して、改装費等の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （令和7年度～令和11年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和7年度では中心市街地の1店舗に対して新規で補助を行い、その他地域では5店舗に新規で補助を行った。
事業の今後について	引き続き空き店舗対策を行い、中心市街地内の実績をつくることで、波及効果も含めて中心市街地営業店舗数の増加を図る。

②. 既存商業施設リニューアル整備費補給金交付事業（秦野市）

事業実施期間	令和8年度～【未】
事業概要	中心市街地における既存建築物を活用し、店舗営業をするための改修費用の一部を市が補助する制度を創設し、給付金を交付する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （令和8年度～令和11年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和8年度からの制度創設のため検討していく。
事業の今後について	活用に係る情報収集を行い、よりよい制度の内容を検討し、制度創設に向けて事業を進めていくことで、営業店舗数の増加を図る。

③. まちなか開業サポート事業

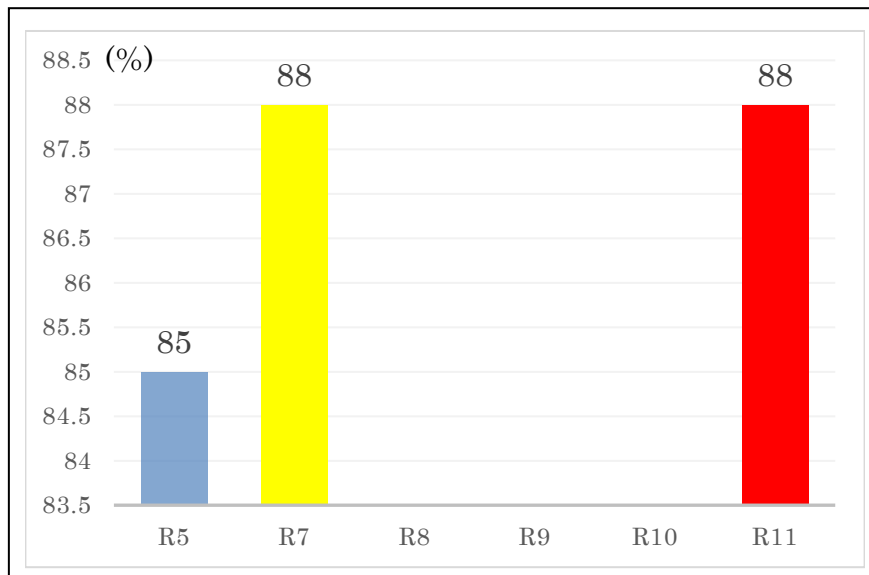
事業実施期間	令和7年度～【実施中】
事業概要	女性のためのスキルアップセミナー等を開催し、商業の新たな担い手の開業支援を行う。また、出店希望者と貸主とのマッチングを支援する制度等を構築する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （令和7年度～令和11年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	起業や事業継承等に係るセミナーを開催するためのニーズ調査や具体的な事業内容の検討を行った。
事業の今後について	令和8年度からセミナー等を開始し、まちのプレイヤーの発掘・育成や新規出店等の支援により、営業店舗数の増加を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

今後は、基準値から減少したF地点（片町通り・四ツ角側）において、商店街空き店舗対策事業やまちなか開業サポート事業などの取組みを推進することで、継続して目標達成できると見込んでいる。

（５）「居住満足度」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 72～P. 73 参照

●調査結果と分析



年	(単位)
R 5	85% (基準年値)
R 7	88%
R 8	
R 9	
R10	
R11	88% (目標値)

※調査方法：

郵送による市民アンケート調査

※調 査 月：毎年 9 月

※調査主体：秦野市

※調査対象：本町地区及び南地区在住の市民

〈分析内容〉

地域の回遊性に資するイベントの実施や、水無川沿い・市道 6 号線公共空間の活用検討をはじめとする計画に位置付ける各ソフト事業を実施することにより、地域資源の魅力の再発見につながり、居住満足度の向上が図られた。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 多世代交流拠点整備事業（秦野市）

事業実施期間	令和 6 年度～令和 11 年度【実施中】
事業概要	県道 705 号沿道に秦野駅北口周辺のにぎわい創造に資する多世代交流拠点を整備するに当たり、現況調査、測量、権利調査、及び従前権利者への損失補償、基本設計のほか、建築設計、土地整備、施設整備を行うもの。
国の支援措置名 及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業） （令和 7 年度～令和 11 年度）

事業目標値・最新値及び進捗状況	多世代交流拠点完成に向け、拠点整備のための用地確保を進めている。
事業の今後について	用地確保を進めるとともに、市民懇談会などを通じて市民の意見を集約し、中心市街地に求められる施設を整備することで、居住満足度の増加を図る。

②. 商店街空き店舗対策事業（秦野市）

事業実施期間	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	空き店舗を活用して開業した事業者に対して、改装費等の一部を補助する。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 （令和 7 年度～令和 11 年度）
事業目標値・最新値及び進捗状況	令和 7 年度では中心市街地の 1 店舗に対して新規で補助を行い、その他地域では 5 店舗に新規で補助を行った。
事業の今後について	引き続き空き店舗対策を行い、中心市街地に様々な出店が行われることで、居住満足度の増加を図る。

●目標達成の見通し及び今後の対策

引き続き、市民懇談会等で中心市街地に求められる機能を見極め、それらの実現に向けた拠点整備や空き店舗対策事業により、継続して目標達成できると見込んでいる。